

6 第2次計画期間における課題

<学校段階が上がるにつれて読書離れが進む傾向>

子どもの読書活動の状況は、平成26年6月に行われた第60回学校読書調査によると、1か月に1冊も本を読まなかった「不読者」の割合（不読率）は、小学生3.8%、中学生15.0%、高校生48.7%と、学校段階が進むに従い進む傾向がみられます。

また、本市が実施したアンケートにおいてもその傾向は顕著にみられ、不読率は、小学生4.4%、中学生11.2%、高校生55.8%という結果になりました。

不読者の割合が高い中・高校生の読書活動を促す取組が必要とされています。

<子どもの読書習慣の確立と言語に関する能力の育成>

子どもの読書活動において、読書離れが進む傾向にあると同時に、読書の質が課題とされています。平成20年3月に公示された学習指導要領では、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動を充実することが挙げられています。

このためには、子どもの身近に良質な本があるような読書環境の整備、司書教諭や学校司書等による子どもの発達に合わせた読書活動へのアドバイス、図書館と学校との連携の充実等の取組が必要とされています。